

い	た	ば	し
ビ	オ	ト	ー
ネ	ッ	ト	ワ
ク			

学校訪問シリーズ 6

学校全体を緑のカーテンでつつんで —子どもの表情が土とふれあったとき変わったのを見た— 板橋区立板橋第七小学校

今年、板橋区で、本格的に温暖化防止活動を区民に呼びかけた、エコライフウィークが始まった。この中で、多くの人の目にとまったのが、みどりのカーテンづくり。温暖化防止に関心をもってもらうのに、とてもわかりやすい環境活動だ。今年、街を歩くと、区民のみなさんの丹精込めた、みどりのカーテンが目につくのは、偶然か、関心が広がった姿なのか。この取り組みを学校で初めて始めたのが、板橋第七小学校。今年で4年目になる。

7月21日夏休みの初日、エコライフウィークの中の学校エコツアーでも区民のみなさん30名と共に、お邪魔した学校だ。

夏のある日、その時の説明者でもあった、植松光一校長先生と宮坂悟先生・青木香保里先生（前6年担任）のお話を伺うことが出来た。みどりのカーテンを育てる活動を通して6年生が温暖化の仕組みについて学び、地球の環境への関心を高めるところまで発展させてきた授業や地域とのパートナーシップについて興味深いお話を聞くことが出来た。

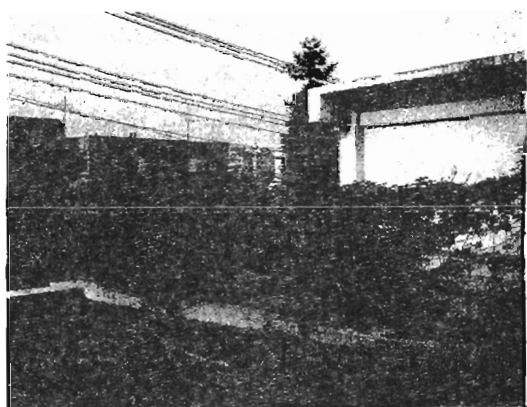
Q どのようなきっかけで、みどりのカーテンを始められたのですか。

A 宮坂悟先生—2003年（平成15年）に原子力発電所がヒビのため、夏の電力を供給する量が減るというニュースがあった。前年の夏に、菊本先生（前板橋七小の音楽専科教師）から自宅のマンションで実践されたみどりのカーテンの取り組みを子どもたちと一緒にやってみたら、温暖化への学習に役立つのではないかと呼びかけられた。

そのころ、5年生が異文化（ストリートチルドレン）の理解の取り組みをして、チョコボラ（ちょこっと、ボランティアをする）という事を学んだ。チョコボラで、駅前の違法駐車自転車を整理したりする。その呼びかけもチョコボラの精神で納得がいったという。6年生の担任二人がやってみようと始めた。「めあて—涼しく快適に過ごせるようにしよう。」だった。

Q 父母、地域の方々の協力はどのように行われたのですか。

A はじめにプランターを33メートルを用意した。この作業にはみどりのカーテンを実施している会社



ベランダの隅にもカーテンが。先生たちの作品



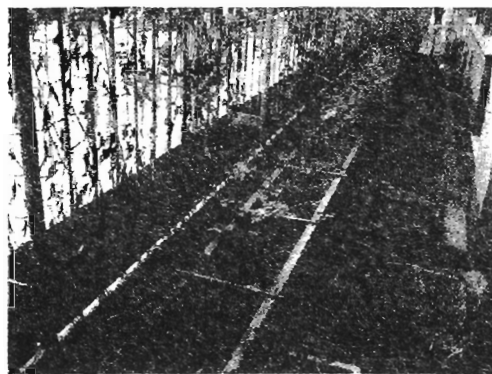
おいしそうにふくらんできたゴーヤを見る宮坂先生

の方や、6年の保護者、20～30人が参加した。
その会社の考えは、不動産を機械的に売るという考えでなく、子どもたちが考えを広げてくれることによって、新しい考えの建物が広がっていく事を望んでいたという。散水装置も砂漠の緑化のために20数年研究してきた人が協力してくれた。

肥料は1年目は腐葉土と土を混ぜたものを使った。張ったネットも、シュロ縄を編んで使ったが、ネットも肥料も実施してみて弱かった。当然、緑の育ちも悪かった。

2004年から、ネットは地元の会社に、肥料も地元の方に協力してもらった。次の学年もこの学びを引き継ぎ、キュウリ110本、ゴーヤ114本、ツルインゲン294本も収穫することが出来た。

2005年は40時間を配当して、「めあてー涼しく快適に過ごすために」というテーマで取り組んだ。



みんなで手作りした
33メートルのプランター、見事

Q いろいろな賞をいただいたようですね。

A 2004年(H16)に環境大臣賞—地球温暖化防止活動対策部門実践部門—を受賞。教職員、保護者、企業が協力して支援したことに対してだった。同年、板橋区環境保全賞—環境美化部門—受賞。

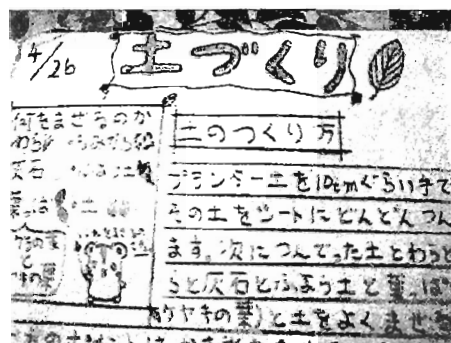
子どもの一人が家庭から、第14回地球にやさしい作文・活動報告コンテストに応募し、内閣総理大臣賞を受賞した。(新聞社主催)

(子どもたちの発表から『緑のカーテンのある教室で、29.9℃～31.3℃、ない教室では41.5℃で約10℃のちがいがあった。』)

Q 子どもたちの変化の様子はどうでしたか。

A 青木番保里先生—子どもたちの表情が土とふれあったとき、変わったのを見た。とても、機嫌よく働いて「先生、こんな虫がいたよ。ミミズがいたよ。」「小さな土にも、9億もの生き物がいるんだよね。」(学習したことを確認していた)

子どもたちの作業は、植物のつるの誘引作業。虫取りをしたり、ぬれた葉っぱを取ったり、収穫をしたりした。又、記録を一人1冊書いて、ハンドブックにした。



土づくりの仕方にと雨水のリサイクルについての子どもの学習のまとめ

Q 植物の病気などは？

A うどん粉病とか、風で倒れないように注意して育てて行こうと指導を受けた。

1センチの土が出来るのは、300年かかるという。ミミズは酸素と水分のあるところにしかいない。酸素が届かないと根が伸びていかない。温度が高いとうどん粉病になりやすい。

Q 教師として学んだことは？

A 宮坂先生—学校の外に出ることで学べるものが多いと気づいた。子どもの変容を感じ取れた。子どもが、「快適」という考え方から、「環境にやさしい」という考え方へ変わった。 (快適一人間だけの立場、環境に優しい一人間と自然の共生の立場へ)



子どもたちとつくった
見事なカーテンの前の青木先生

青木先生—ISC の取り組みを通して、家で省エネの取り組みをするようになった。母親の協力も得られた。私自身も、100年後の地球のことを考えられるようになったり、発見することが多かったり びっくりした。多くの人の支援があってこそ出来たと思う。お二人の先生の感想「楽しかったからね。」と一致。

Q 保護者の感想は？

A みどりのカーテン、最高とってくれました。

Q 校長先生から見て、子どもたちはどのように育っていますか。

A 植松光一校長先生—各学年がみどりを育てているからか、どうかはわからないが、穏やかな感じがする。自分が自然の一部なので、環境を大事にすることは、自分を大事にすることととらえているようだ。環境学習としてとらえ、全校でみどりのカーテンづくりの作業をおこなっている。

Q 植物をうまく育てる方法を教えてください。

- A ① 苗が店に出始めたときにすぐ、植えた。'06年度はGW前に植えたのがよかったようだ。
② 先生が3人でくめるとよいと思う。2人は担任で、後の先生がいると涉外や様々な活動上、助かる。
③ コンポスト（生ゴミから、肥料をつくる）—地域、保護者につくっていただける事はとても助かる。

Q 今の校内研究のテーマは何ですか。

A 「互いに学び合い、意欲的に活動する児童の育成。」—緑から学ぶ環境学習を通して—というように、前より広がってきました。

文部科学省発行の平成17/18年度「環境教育実践モデル事業中間報告書」に取り上げられる予定です。また、数的に記録を示すことが大切ですね。家庭毎のエコアクションで電気・ガス・水道の使用量とゴミが減る取り組みに発展させていきたいです。又、キッズISOの取り組みに挑戦していくことが課題です。



校長室で、右から植松校長先生、青木先生、
官坂先生、SOE寺田

9月の休日に板七小をのぞくと、植えられるところ全てに緑のカーテンが育てられ風に揺れていた。地熱の温度を幾度も下げているだろう見事な光景だった。住民も、「おらが板七小」に負けず、カーテンの取り組みをしていると誇らしげに案内してくれた。

真夏の8月16日付け読売新聞夕刊に、涼しげに窓の外をぐるりとみどりのカーテンに囲まれて、水泳の準備をする板七小の子どもたちの様子と、弥生小の芝生の校庭上で気持ちよさそうにラジオ体操をする区民の光景が大きく掲載された。このような取り組みが、学校だけではない板橋区、全都、全国の温暖化防止活動に弾みを付け、学校関係者、パー

トナーシップを進めたい父母、地域、行政の方々に大いに励ましていくことだろう。

センスオブアースのホームページには、板橋区の温暖化防止の取り組みである『エコウィーク2006』のリポートや、コラムなどの情報が掲載されています。ごぜひ、ご覧ください。

www.npo-soe.jp または npo-soe.jp へアクセスしてください。

センスオブアース 10月～11月のイベント



荒川クリーンエイド 2006 ~ www.cleanaid.jp

10月22日(日) 10時～12時 参加費: 無料

場所: 荒川河川敷 自然生態園前土手に現地集合

今年も秋のクリーンエイドの季節がやってきました、

荒川自然生態園会場は、板橋野鳥クラブとセンスオブアースが共催。

ゴミひろいのあと、野鳥観察、イモ煮会。楽しい活動で、汗を流し、鳥をながめながら、おいしい野外食事。

是非一緒に地球をきれいにしましょう。

日本女子大学人間社会学部 日女祭 (ひめの祭)

学園祭のテーマ 「SPARK」

交 小田急線各駅停車読売ランド前下車 徒歩 15分、

10月22日(土)・22日(日) 10時～17時 通 向丘遊園前下車 日本女子大学スクールバスにて 15分

大学構内の雑木林を観察してきた「自然観察会」が、植物や、生き物、自然遊びの展示発表をします。同時にSOEが主催した第3回沖縄エコツアーの報告をおこないます。サンゴなどの自然観察や、現地の人との交流の様子を紹介。

野鳥の専門家栗林菊夫さんと歩く《要・申し込み》

蓮根～荒川自然生態園、浮間公園の野鳥観察会

11月11日(土) 10時～13時頃 参加費: 無料

集合場所: 板橋区立蓮根第二小学校校庭

初心者でも楽しい野鳥観察会です。高性能の双眼鏡や望遠鏡で見せてもらえます。自然生態園では、クロベンケイも観察します。親子、友人でもぜひご参加ください。昼食軽食と飲み物持参。小雨決行。

(中止の時は8時までに申込者に決定連絡します。)

《学生、市民、教師の協働でおこなう》

第一回環境教育プログラム作成ワークショップー学校に提案する教材とプログラム作り

《要・申し込み》

10月29日(日) 13時～17時 場所: 板橋区エコポリスセンター2階環境学習室

参加資格: 環境教育に関心のある大学生、市民、教師など、どなたでも。ここで出来上がったプログラムは、板橋区の来年度の学校教育に提案していきます。

NHK生活ほっと、夏休みラジオ子ども質問番組でおなじみの 藤本和典さんと歩く

高島平緑地帯～赤塚公園内自然観察と赤塚森林浴バーベキュー

12月中旬予定 10時～14時ごろ 参加費: ひとり400円 《要・申し込み》

夏の自然観察も楽しかった藤本和典さんといっしょに冬の板橋区の自然観察です。何気ない街の自然のなかから、次々に発見のある、楽しいお話を聞きながら過ごすホットな一日です。昼食は高島平緑地でバーベキューをします。親子、友人同士どうぞ(詳細は次号掲載)

雑木林探検 1月上旬予定 《要・申し込み》

川越の雑木林でみんなで落ち葉はきをして、雑木林を元気にさせます。そこで 焼き芋パーティーなど。野菜もいただいで帰ります。親子で参加してね。お楽しみに。

《要・申し込み》のイベントは事前のお申し込みが必要です。

下記メールまたは、FAXにて『お名前・電話番号・参加者数を明記のうえ』お申し込みください。

メール: info@npo-soe.jp FAX: 03-3960-6053

発行 特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp